



リビングからダイニング、キッチンを見る。家族が多い分キッチンに立つ時間も長いことからキッチンを中心としたレイアウトで家族とのコミュニケーションを重視した。



17

上 は14歳から下は1歳の4人の子どもと、愛犬一匹の大家族で暮らすSさんの家。それまで築35年の中古住宅で暮らしてきたが、家族が増えるに伴い手狭になったことから建て替えることにした。「知人がコーラードで家を建てたのを見てもらったのが最初です。北欧デザインで温もりのある雰囲気と好みの家だなという印象でした」と妻のMさんはビルダーとの出会いを振り返る。

家族が多いS邸では、キッチンに立つ時間が長い。そこでキッチンから1階全体に目が届くことは最優先事項の一つだった。キッチンはシンクとコンロが並列しているII型を採用。II型は作業動線が短くなるほか、収納スペースや作業スペースが広くなるなどメリットが多い。アイランド型のシンクの周りには家族が入れ替わり立ち替わりやってくる。「お手伝いもしやすいし、この動線にしてよかったと思っています」とMさんは笑顔を見せる。「ホームシアターもつくったんですよ」というSさん。天井からするするとスクリーンを降ろす。家族みんなで映画鑑賞を楽しむこともあるという。新しい住まいでの暮らしを存分に楽しんでいる様子が伝わってくる。

家族みんなが仲の良いS邸だが、コミュニケーションが生まれる間取りと同時に叶えたかったのが、ほどよい距離感だとMさんは言う。そのため2階は3つの子ども室に振り

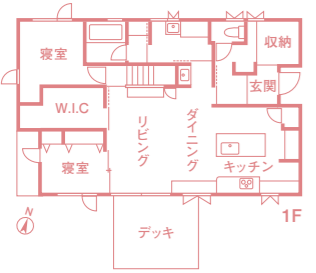
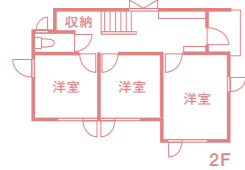
暮らしにすっとなじむ
温もりあふれる北欧デザインの住まい

設計・施工 CHORALY 菊地建業 | 秋田市/S邸

夫 (40歳) 妻 (40歳) 長男 (14歳) 長女 (11歳) 次女 (6歳) 次男 (1歳)



手前の外部物入れの屋根を玄関へ延ばし、雨よけにした構造。落ち着いた外壁にエントランスの木目が映える。



設計 阿部まさみ建築設計事務所 施工 有限会社 菊地建業
竣工 2021/6 構造・工法 木造軸組工法
規模 2階建 敷地面積 347.94㎡ (105.25坪)
床面積(総) 118.98㎡ (35.99坪)
1階 81.80㎡ (24.74坪) 2階 37.18㎡ (11.25坪)
リビングデッキ 10.93㎡ (3.31坪)

主な設備・断熱性能等

- 暖房の種類/エアコン(電気) ●給湯の種類/エコキュート(電気) ●バス/TOTOサザナ ●トイレ/1階TOTO GG1、2階 Panasonic アラウーノ ●キッチン/TOTO クラッソ ●調理器具/IH ●窓仕様(主なもの)/樹脂サッシLow-Eペアガラス ●断熱材/グラスウール ●換気システム/第3種換気 ●長期優良住宅 ●UA値/0.36W/mK

主な仕上げ材

- 床材(主なもの)/パイン ●内壁材(主なもの)/ビニールクロス ●屋根材/ガルバリウム鋼板 ●外壁材/ガルバリウム鋼板

総工費・坪単価

- 建築工事費の総額/2,700万円台(税別)
- 坪単価/70~75万円(税別)

CHORALY 菊地建業



長期優良住宅でのグリーン化事業を希望されて、こちらも気合いの入る物件でした。ご夫婦でこだわり抜いたお住まいを完成させました。耐震等級3も取得して、高性能で素敵な住まいを賢く建てることができました。

設計 阿部さん

<http://choraly.com>

☎018-588-8468

→ P.135



6



5



7



8

2.リシンクとコンロが並列しているI型キッチンは作業動線が短くなるほか、収納スペースや作業スペースが広がるなどメリットが多い。子どもたちも積極的に台所でお手伝いをするようになったそう。3.床材に採用した無垢のバイン材は北欧デザインの住宅によく使用されるもの。階段下には愛犬用のスペースを造作した。「スクリーンを降ろしてホームシアターにすることもありますよ」とSさん。4.玄関には靴を履くための台を造作した。タイルの床は傷や汚れがつきにくく、メンテナンス性も高い。5.家族が多いS邸では独立洗面台が必須。鮮やかなブルーのタイルがアクセントに。6.1階のファミリールーム。将来親と同居することになったときや個室が必要になったときなど、ライフステージの変化に対応するためのゆとりのスペース。7.年の差を考慮して子ども室は2階に3つ。各部屋の壁面の一部はアクセントクロスとして穏やかなパステルカラーを配した。8.2階の納戸。廊下の一部を小上がりにしてじゅうたんを敷き込んでいる。機能的な収納スペースが、無垢のバイン材、ルーバーでいっそう魅力的に仕上がっている。



2

分け、子どもたちそれぞれのプライベートを重視する作りとした。1階には主寝室のほかに、「リビングの一角に「ファミリールーム」がある。通常和室などに設えることも多いこのスペースは将来的に親との同居が必要になった際に寝室にしたり、主寝室を子ども室として使う場合にファミリールームを寝室として使うなど、ライフステージの変化に対応した使い方ができる空間になっている。「寝室も1階に設えたいし、ファミリールームもあるので、将来介護が必要になったとしても大丈夫」とSさんも満足げな様子だ。仲の良い家族の笑顔の絶えない温かな住まい。新しい家がSさん家族の暮らしにすっとなじんでいる様子がなんとも微笑ましい。



3



4